

0歳児

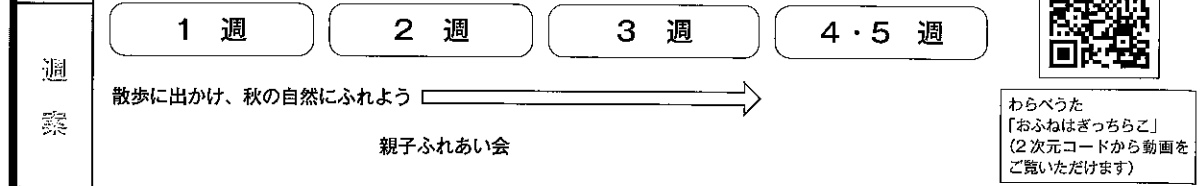
0歳児

行事	<ul style="list-style-type: none"> 誕生会 避難訓練 親子ふれあい会 	クラスのようす <ul style="list-style-type: none"> 朝夕の寒暖差で鼻水、目やになど風邪の症状が出る子どもがいた。 ふれあいあそびをしていると「自分もしてほしい」と寄ってくる姿が見られるようになった。 	(養護・ねらい・教育) <ul style="list-style-type: none"> 自ら意欲的に食べ、気持ちよく入眠し、目覚められるように生活リズムを整える。 一人ひとりの子どもに合わせて十分にからだを動かしてあそび、探索活動を楽しむ。
----	--	---	--

育てたい内容と保育者のかかわり

○食事では、自分で食べたいという気持ちが生まれ、手づかみやスプーンを持つなど、保育者に介助してもらいながら意欲的によくかんで食べようとする。
△食事に向かうときはいつも、手洗い→着席→エプロン→「いただきます」といねいにことばをかけながら、少し先の見通しをもてるようにかかわる。

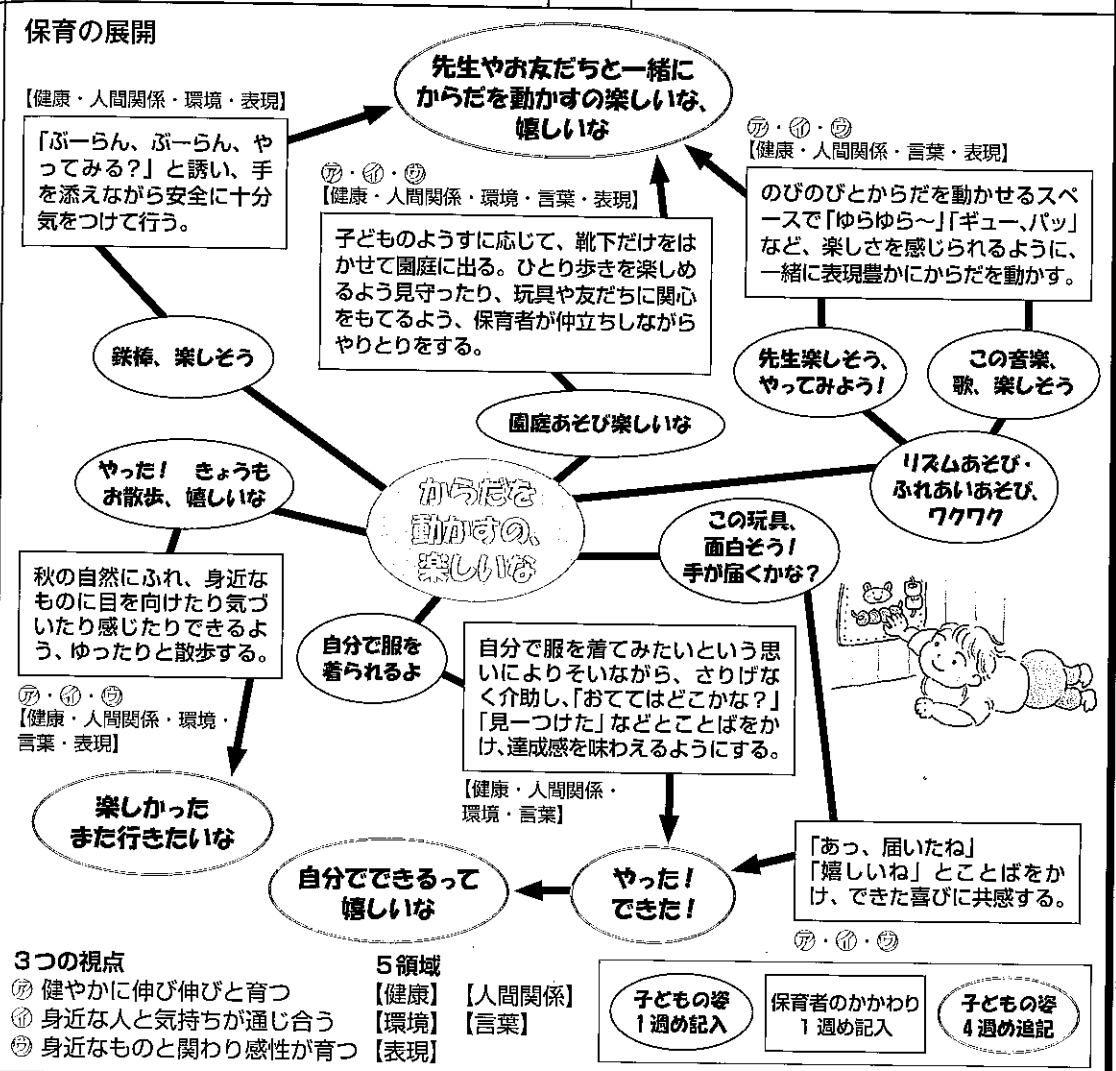
○戸外でからだを十分に動かし、探索あそびを楽しむ。
△高い、低い歩き、歩行、斜面上りなど、からだを動かせるような環境づくりを工夫し、子どもと一緒に楽しむ。



わらべうた
「おふねはぎつらこ」
(2次元コードから動画を
ご覧ください)

子どもの姿 (前月末)	子どもの育ち (ねらい・内容)	保育者のかかわり (環境・かかわり・配慮)	反省・評価
<ul style="list-style-type: none"> 手づかみややすい芋等を、次つぎと口に詰め込むようにして食べる。 月齢の高い他児が散歩に行く姿を見つげると、腹ばいであとを追うようについていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 食べたい物を手づかみで口へ運び、ゆっくりと口を動かして食べ、満足する。 散歩に出かけ、犬やタヌキの置き物を見つけたり、公園で葉っぱや石、砂などの自然物に触れたりして、感触を味わい楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 「モグモグおいしいね」などゆったりと食べられるようなことばをかけ、前歯でかみ切ることのできる大きさの食材や歯茎や舌を使ってつぶせるやわらかさの食材などを用意し、しっかりしゃくして食べ、満足できるようにする。 散歩でのまなざしや発声、表情などに応じてベビーカーを止め、「ワンワンいるねえ」など指さして確認し、共有して楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 散歩中、他児がおなかをたたいてタヌキのまねをするようすを見て笑って楽しんでいたたり、タヌキの置き物を注視したりするようになっていった。来月も園内では経験できない発見や出会いに期待し、安全に気をつけ、自然物に触れ、興味・関心を広げていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> 保育室内では、両腕を広げてバランスをとりながらひとり歩きをするが、靴を履くと、座りこんで動かさずじまい。 他児があそんでいる所に、「あー」と声をあげ、ニコニコと笑いながら近寄っていく。持っている玩具をさし出すこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> 安定して歩けるようになり、靴を履いて園庭でのひとり歩きを楽しむ。 玩具を渡したり、もらったたり、動きをまねしたりして、他児や保育者とのやりとりを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育室や人工芝などの安心できる環境で自由に動き回れるようにし、園庭では靴下などで過ごす。歩行が安定してから園庭でも靴を履く時間を少しずつ増やしていく。 「嬉しいね」「やさしいね」と思いに共感し、「はい」「どうぞ」「ありがとう」など、やりとりの動作にことばをそえて一緒に楽しみ、気持ちが伝わることへの喜びを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者が仲立ちしながら繰り返しやりとりを楽しむなかで、B児と他児だけでもやりとりを楽しむ姿が見られるようになった。また、渡す際に「あい」と頭を下げるしくさも見られる。引き続きやりとりを見守り、一緒に楽しむながら、他者とかかわる喜びを伝えていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> 自分の衣服を見つけて手に取り、保育者と共に頭を通したら自分で腕を動かして袖に通そうとする。 音楽が鳴り始めると、「あっ」といって聞き入り、リズムに合わせてひざを屈伸させたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の服がわかるようになり、保育者の援助のもと、少しずつ自分で着てみたい気持ちが芽生える。 保育者と一緒に音楽やふれあいあそびをして、からだのさまざまな部分をリズムに合わせて動かす楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 「おててはどこかな?」「見一つけた」など、ことばをそえて援助し、服を自分で着てみたいという思いによりそいながら、一緒に着られた達成感を味わえるようにする。 他児に当たらないように場所を広くとり、保育者が笑顔と一緒にからだを揺らしたり、しゃがんだり、両腕を曲げ伸ばしたり、音楽に合わせてからだを動かす楽しさを味わうようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 脱衣時にさりげなく手を添えるなど途中で手伝うことで、スポンを自分で脱ぐことができるようになり、嬉しさからたびたび脱ぐ場面もあった。自分ですることで満足感や心地よさを感じられるように、気持ちや場面に合った介助をしていきたい。

食育・健康・安全への配慮 <ul style="list-style-type: none"> 暖かい日中は薄着にし、夕方は1枚羽織るなどして調整をする。 食事の形態は子どものそしゃくの様子をしっかりとらえ、給食室とも連携をしながら進めていく。いすに座れる子どもは安定した状態で座っているか、足が床についているかなども見ていく。 	職員間の連携 <ul style="list-style-type: none"> 朝夕の気温差が大きく体調を崩しやすいので、一人ひとりの体調について担任間で伝え合い、衣類の調節などで対応できるようにしていく。 一人ひとりが興味をもっているあそびや運動機能面の発達やたらきかけ方などを共通理解する。
---	--



子育て支援 家庭との連携 <ul style="list-style-type: none"> サイズが合っていない物や、デザイン性を重視した衣服・靴を用意する家庭が見られる。子どもが動きやすく、適度に余裕のある衣服が適正なサイズであることや、機能的な物を用意してもらう必要性を、具体的な例をあげて説明し、共通認識とする。 親子ふれあい会では、普段子どもたちと楽しんでいるふれあいあそびを行い、親子で楽しめる雰囲気をつくっていく。 	ふりかえり <ul style="list-style-type: none"> 月齢の低い子どもも、食事前の流りを毎日繰り返すなかで、自分で食べようとしていたり、エプロンをつけようとしていたり、ごちそうさまをいったり、エプロンをはずそうとしていたりする姿が出てきている。「自分で」の気持ちを大切にしながら、子どもに共感のまなざしを向け、引き続き保育を行っていく。 月齢の高い子どもたちは、自分の思いが出てきて、玩具を取り合う姿が見られるようになってきている。子ども同士の気持ちがぶつかったり、すれ違うときは、双方の思いを受けとめながら、子どもの気持ちをことばにし、気持ちの立て直しができるよう、ていねいにかかわるようになる。
---	--